

10月2日「第5回 SDGs 講演会」が、本校視聴覚教室で実施されました。



今年度からスタートした山田高校 SDGs 探究活動の報告です。

第5回 SDGs 講演会が、1年生の総合的な探究の時間（10/2）の中で開催されました。

テーマは、『SDGs の達成に向けて生協ができること』～ならコープの取り組み～

講師は、市民生活協同組合ならコープ副理事長 吉田 由香 氏です。

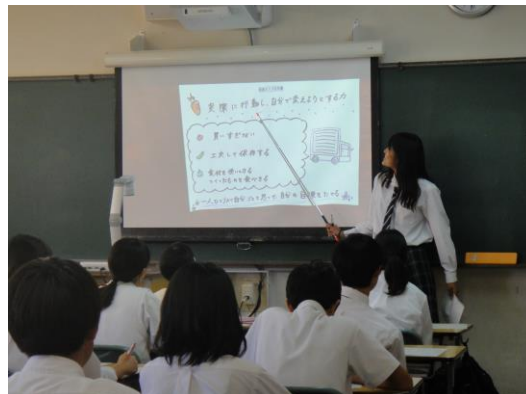
●講師 市民生活協同組合ならコープ副理事長 吉田 由香 氏のメッセージ

『大人だけではなく、学生の皆さんもみんな消費者です。消費者として、目標12「つくる責任つかう責任」を一人一人が意識することで、SDGs の取り組みは大きく前進するものと思います。人に任せるのではなく、自分事として、自分の目標を立てて取り組むのもいいのではないのでしょうか。

「万人は一人のために、一人は万人のために」「1人の100歩より100人の1歩」

皆さんにこの協同組合の理念を表す言葉を贈ります。』

●講演後の生徒発表の様子（10/9）



●生徒のレポートより抜粋

- ・ならコープでは1982年からレジ袋が有料になっていたことがすごくビックリで、近所のスーパーよりもとても早い段階から環境保全に取り組んでいたのだなと感動しました。レジ袋1枚5円のお金は環境保全活動助成金に使われると聞いて、環境への悪影響を少しでも減らそうとしていることが分かりました。
- ・日本の食品ロスが年間643万トンあって国際機関が送る食糧援助は320万トンなので、日本の食品ロスが圧倒的に多いことが分かります。だからいくらフェアトレードの食品を買ったところで、それを残してしまえば意味がなく、協力しているつもりになってしまいます。私は全ての物事は相互に関連していて、良いと悪いは常に並立していると思うけれど、その中でも「一番良い」のは何かということを考えて取り組むことが大事だと思いました。食品ロス問題で私が一番良いと思うのは、賞味期限切れ商品を売るスーパーで必要なものだけを買うということです。
- ・ならコープという大きな団体が活動しているのが良いなと思いました。大きな団体が動けば、一人一人にも影響を与え、SDGsが多くの人にまで伝わって広がっているのが良い結果に繋がると思います。そういったことを含め今の状況を考えると、国全体の規模の大きな動きが必要になってきているのではないかと感じています。SDGsに関して、国民が家庭で簡単にできるようなことを決まり事としていくつか規定し、強制的に取り組むを始めるというように、多少強引と思われるやり方でも仕方ないのではないかと感じています。
- ・自分たちができることをコツコツ積み重ねていくこと、このことが本当に大切でSDGs実現に向けて進んでいくのではないかと思います。食品ロスがここまで深刻な問題ということを知りました。家に持ち帰り、家族とともに今一度、食品ロスは大丈夫かどうか話し合いたいと思います。
- ・ならコープがレジ袋の有料化をする際、「うちだけ有料にしたら、お客さんが他の店に行ってしまうのではないか」という不安も、周りの企業、お店で協力し合うと、一歩踏み出せると思います。ファーストペンギンも確かにすごいと思います。でも、皆で協力し合う、その行為もSDGsに繋がるのではないかと、私は考えました。

(*) SDGsとは、2015年国連で決めた、人類が達成すべき17個の目標のことで、Sustainable Development Goalsの略です。

